

# 定置網漁業における漁獲量の推移

(一財) 東京水産振興会事業「沿岸漁業対象魚種の漁獲変化に関する調査研究」より

全国漁獲量

- ・大型定置網
- ・小型定置網
- ・さけ定置網

道県別漁獲量

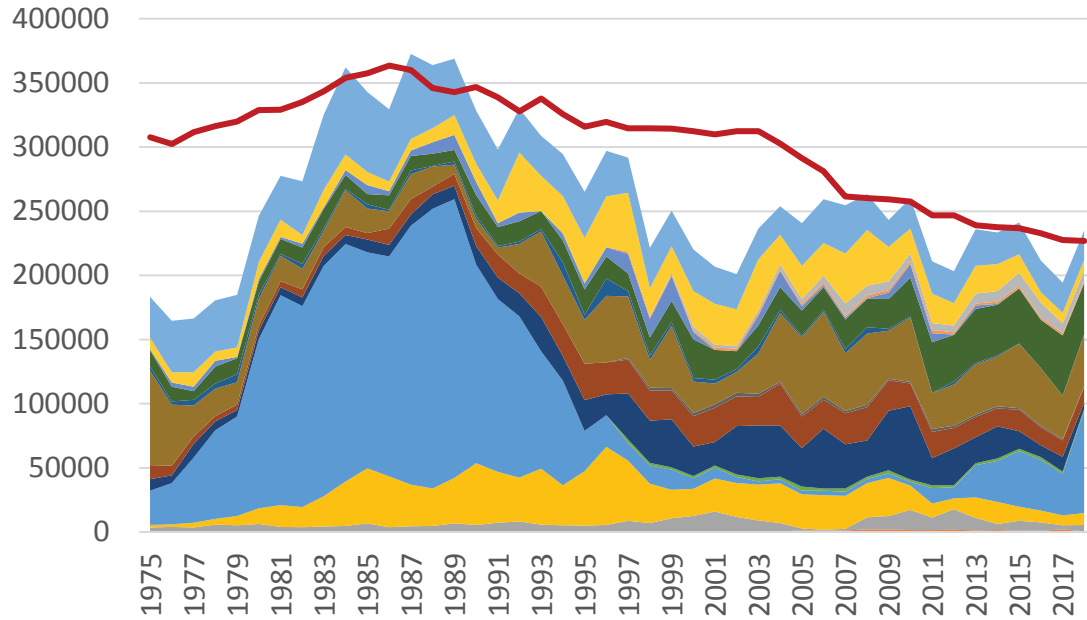
日本海側：長崎県、鳥取県、富山県、秋田県

太平洋側：鹿児島県、高知県、和歌山県、千葉県、岩手県、北海道（全道）

# 大型定置網

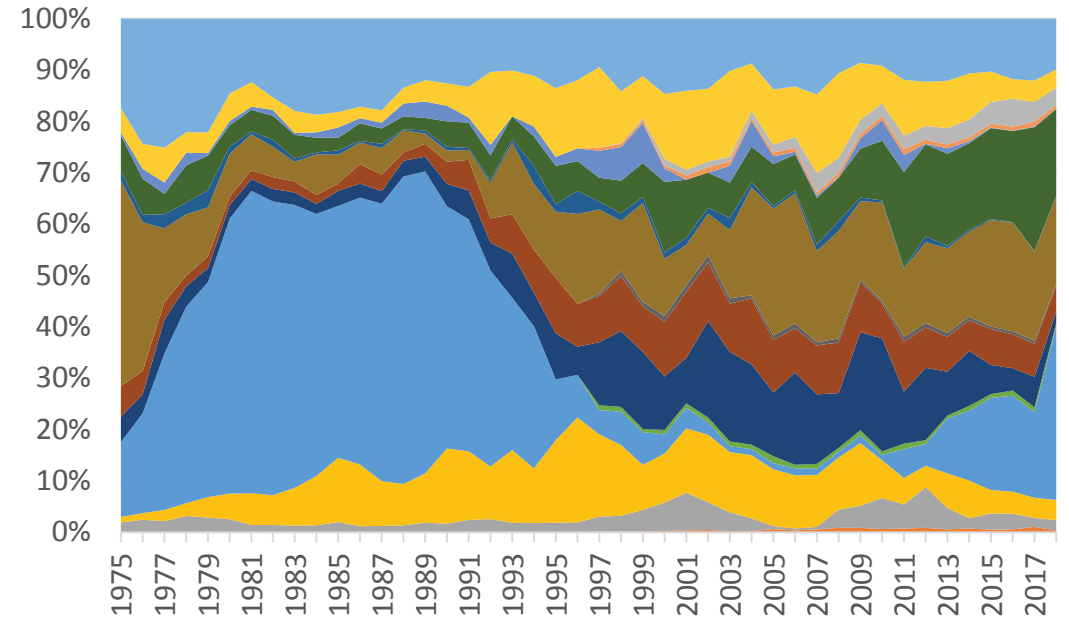
漁獲量 (t)

## 主要魚種別漁獲量、漁労体数



漁労体数 (件)

## 主要魚種組成



- ・ 定置漁業権（身網水深27m以上）に基づき行われるもの。
- ・ 漁獲量は1980年代後半にピーク（マイワシの豊凶に対応）。その後減少し、2000年以降は横ばい～漸減傾向。
- ・ 漁労体数も、1980年代中頃をピークに減少傾向。
- ・ 漁獲対象は、マイワシ、カタクチイワシ、マアジ、さば類、ぶり類、いか類（スルメイカ）を基幹に、北日本ではさけ類、スケトウダラが、西・南日本ではそうだがっお類が加わる。
- ・ マイワシと、他の小型浮魚類の間には「魚種交替」現象がみられる。
- ・ 近年のぶり類、さわら類の増加、サンマ（2010年以降）、いか類（スルメイカ）の減少が顕著。

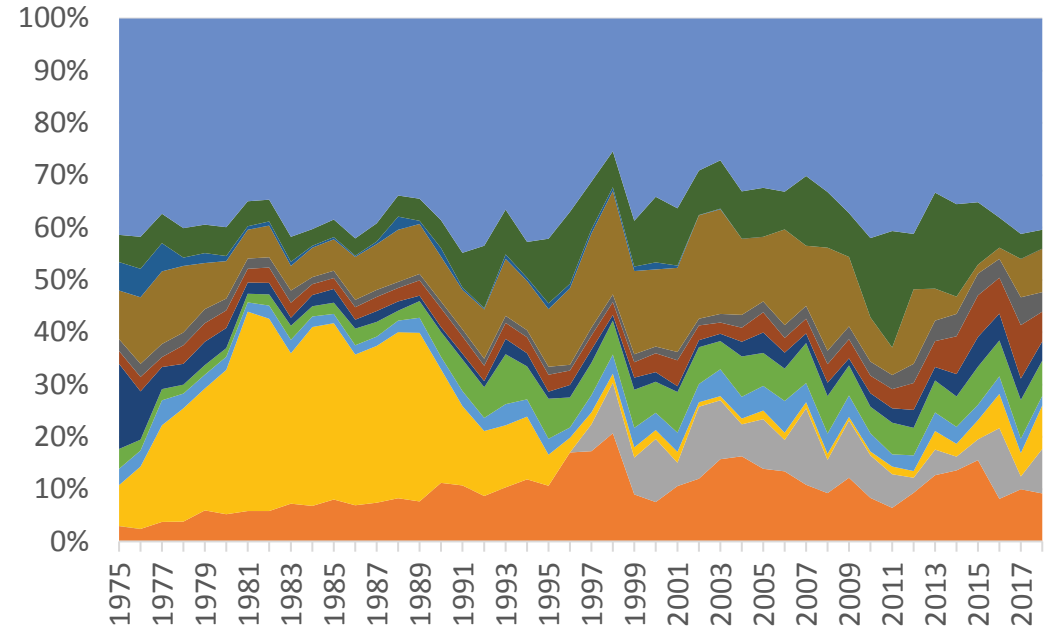
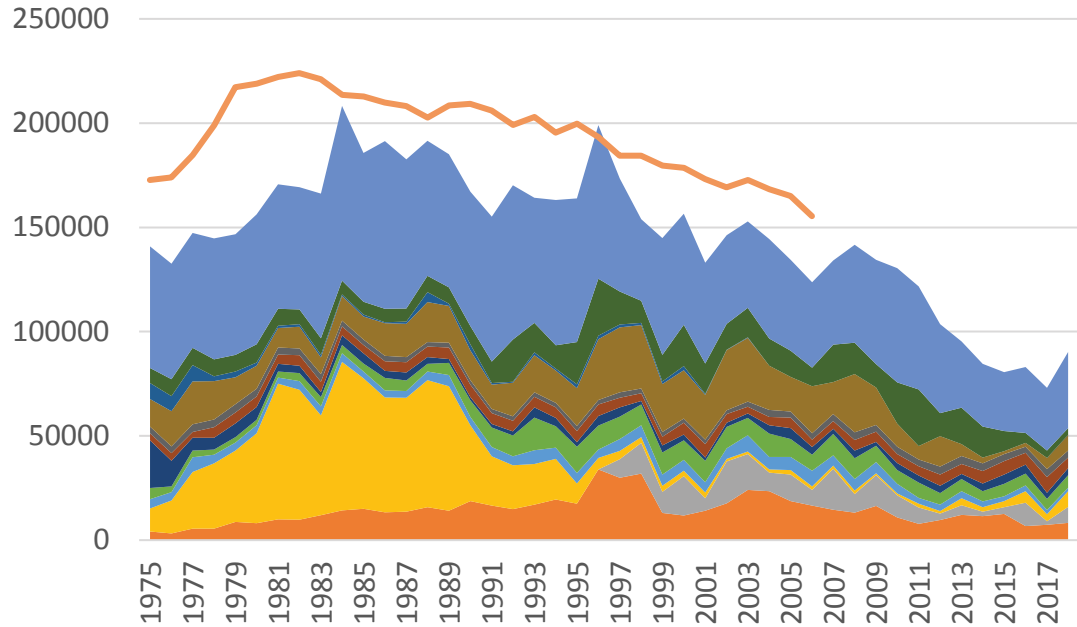
# 小型定置網

漁獲量 (t)

## 主要魚種別漁獲量、漁労体数

漁労体数 (件)

## 主要魚種組成

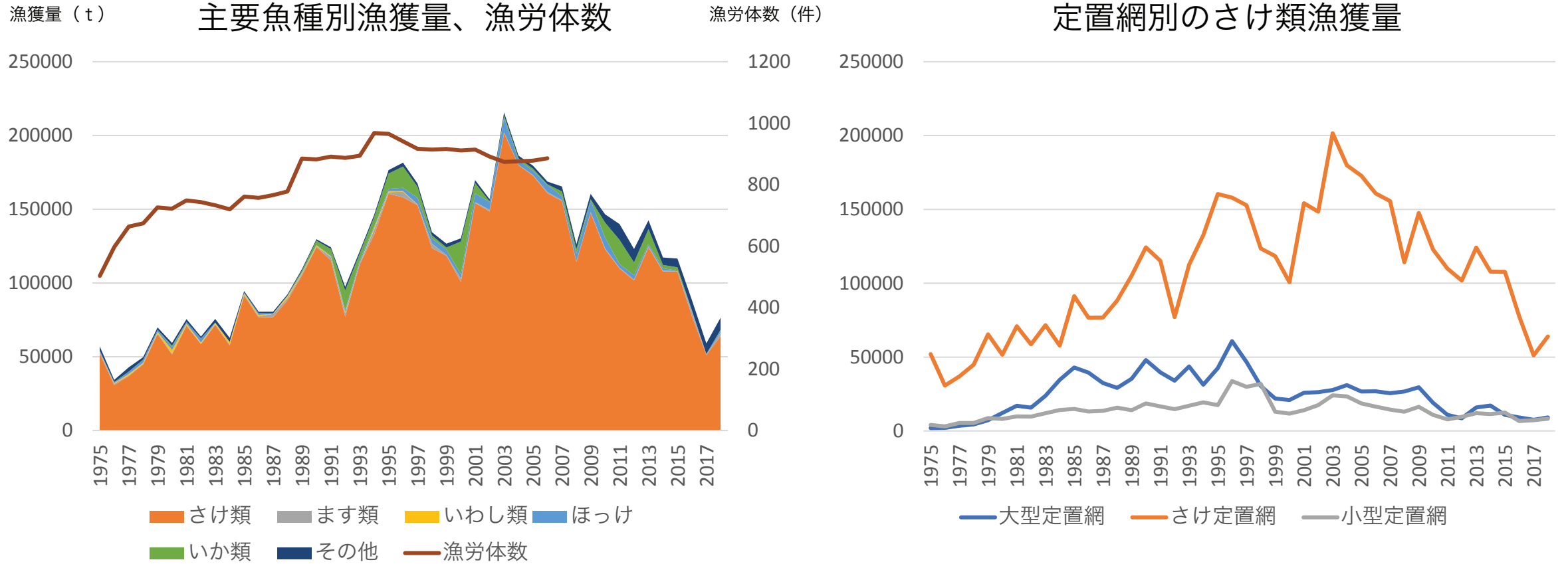


- さけ類    ます類    まいわし    かたくち    まあじ
- さば類    ぶり類    かわれい類    ほっけ    いかなご
- いか類    その他    漁労体数

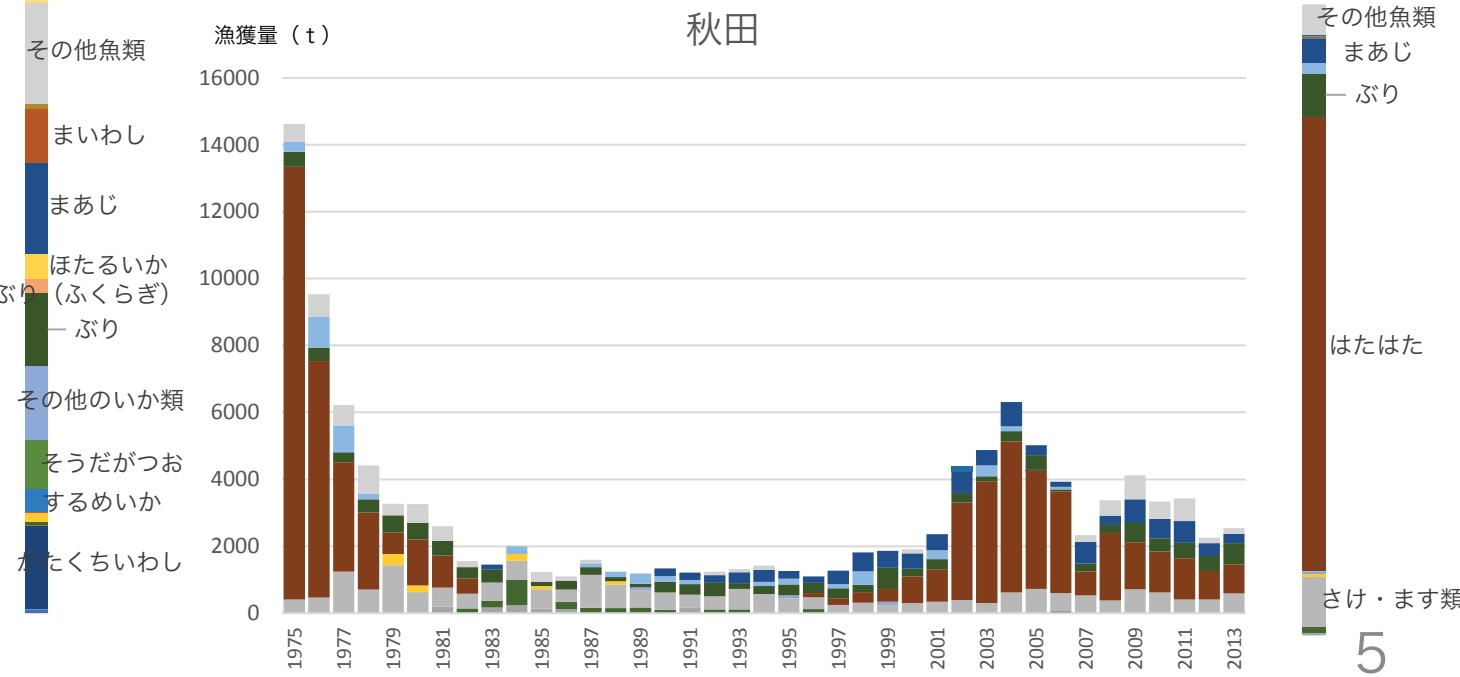
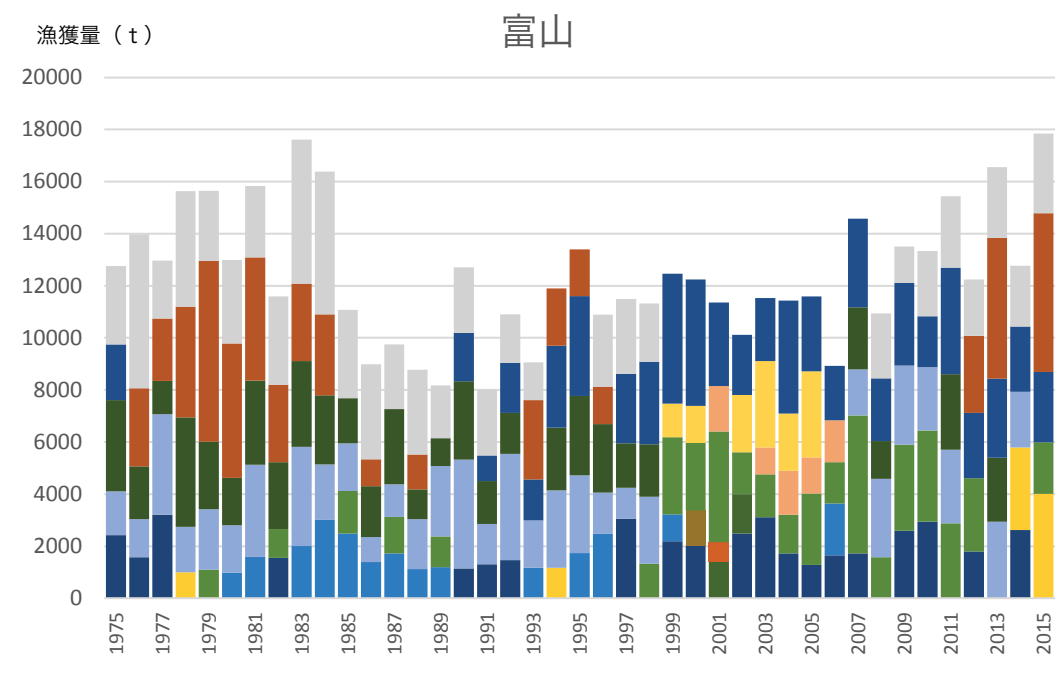
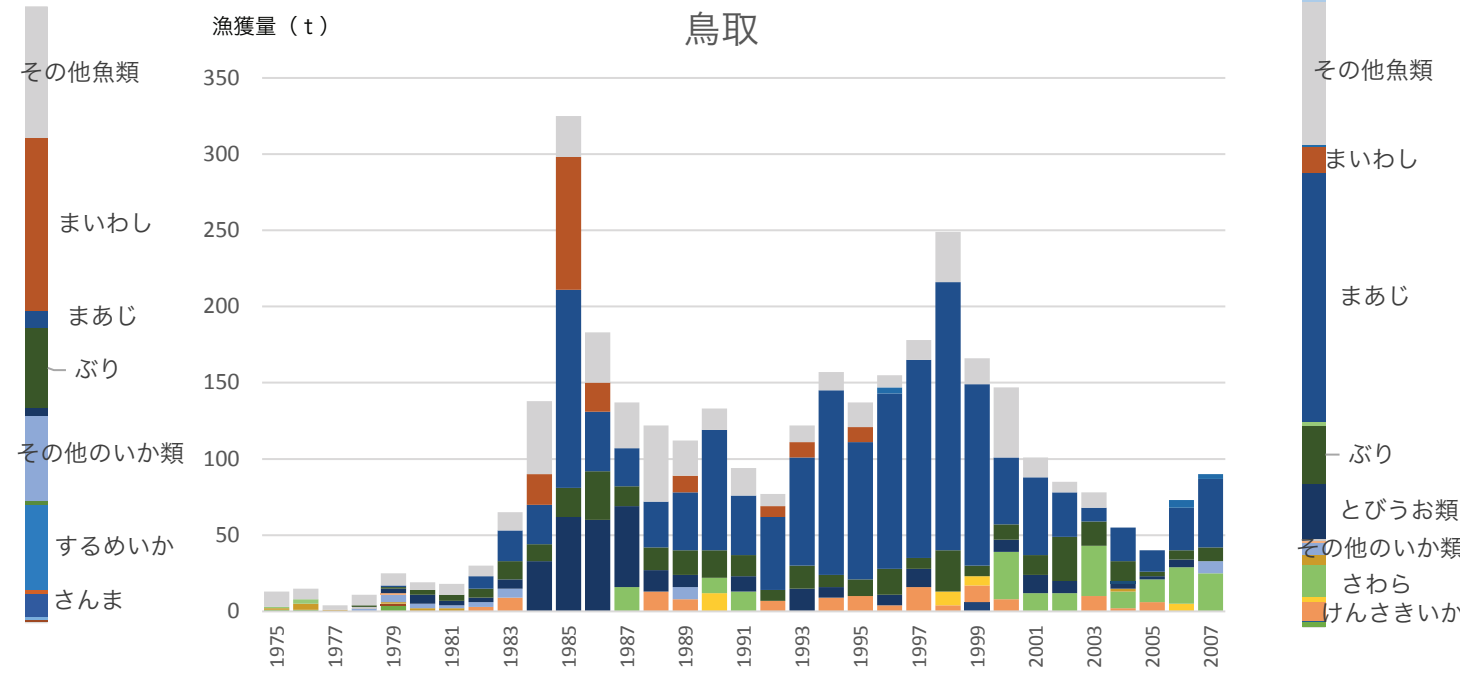
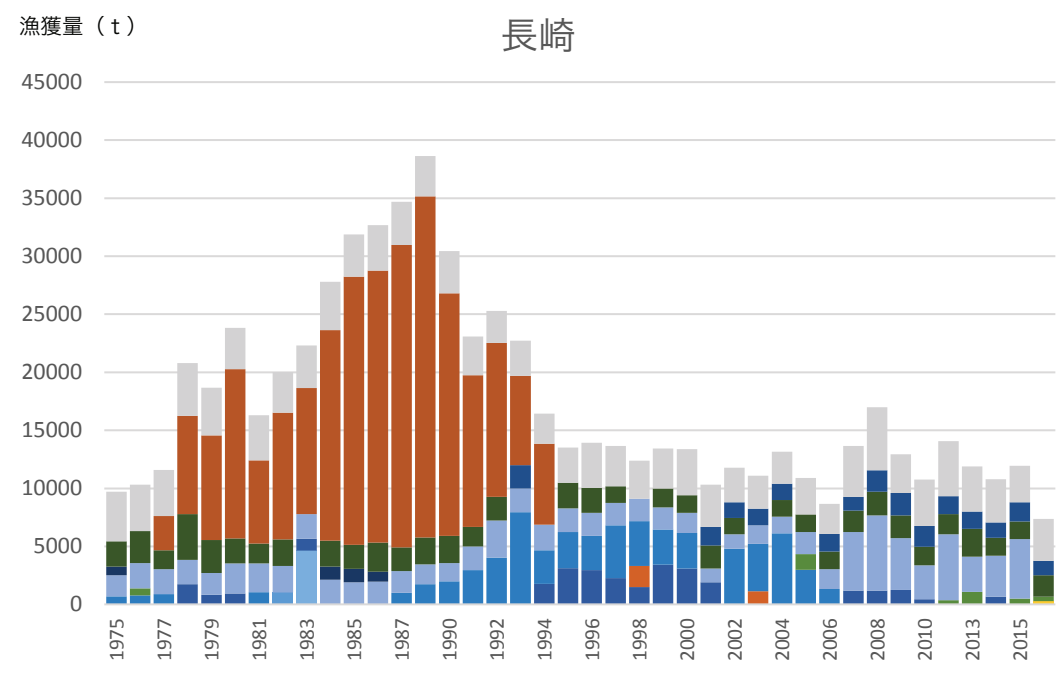
- ・ 第二種共同漁業権漁業として営まれるもの。
- ・ 底建網などを含み形態も多様で、内湾や汽水域でも操業するため漁獲対象は多岐にわたる＝「その他」が全漁獲量の40%前後を占める。
- ・ 漁獲量は1980年代前半をピークに減少。特に2010年前後からの減少が顕著。漁労体数も漁獲量と同様の变化傾向。

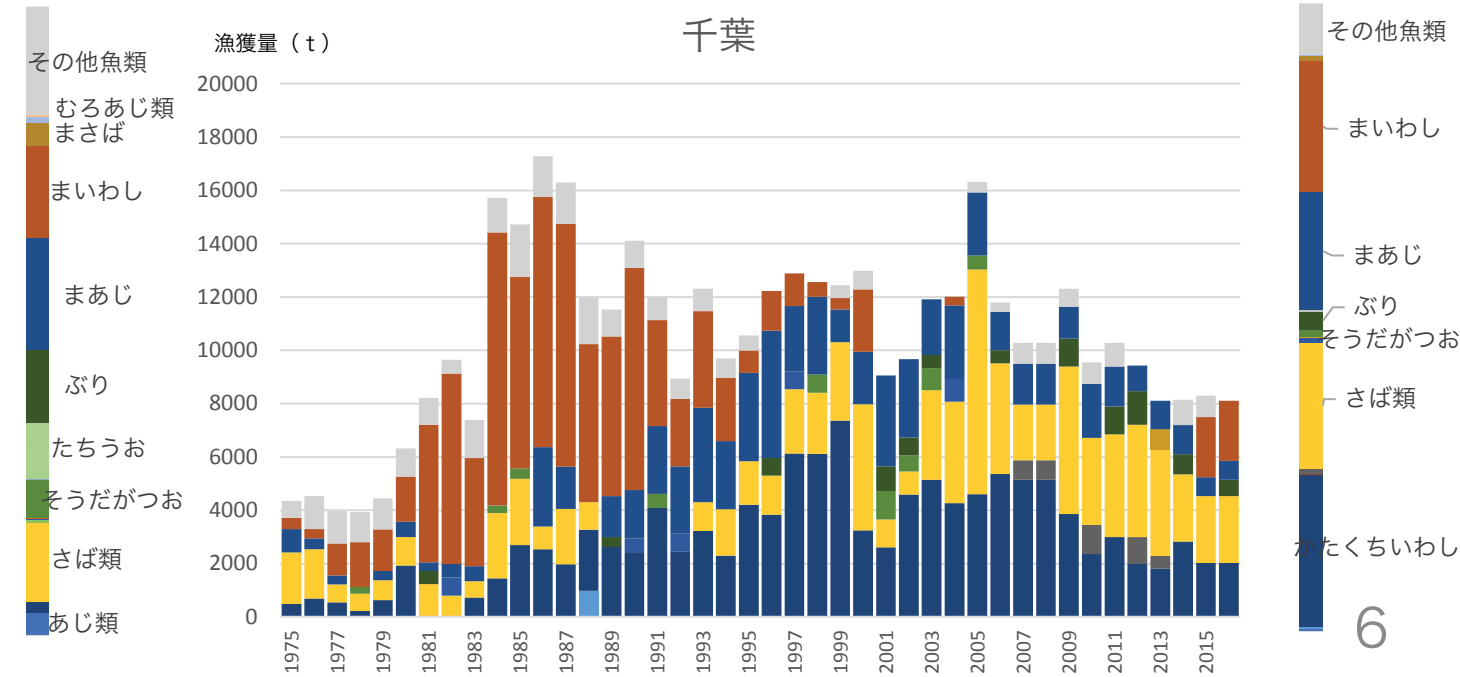
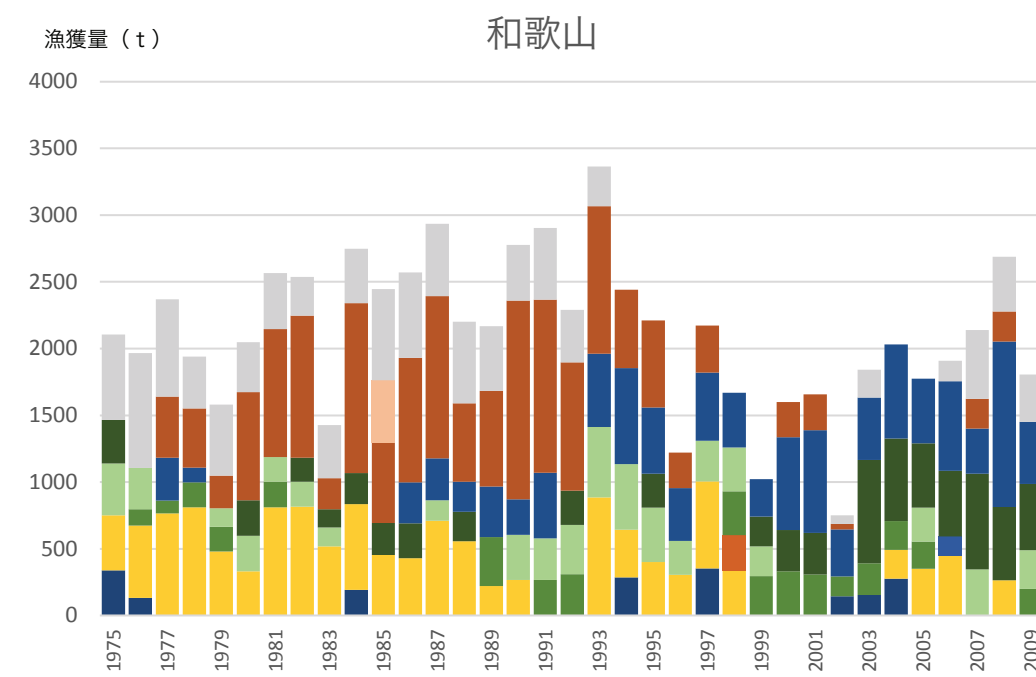
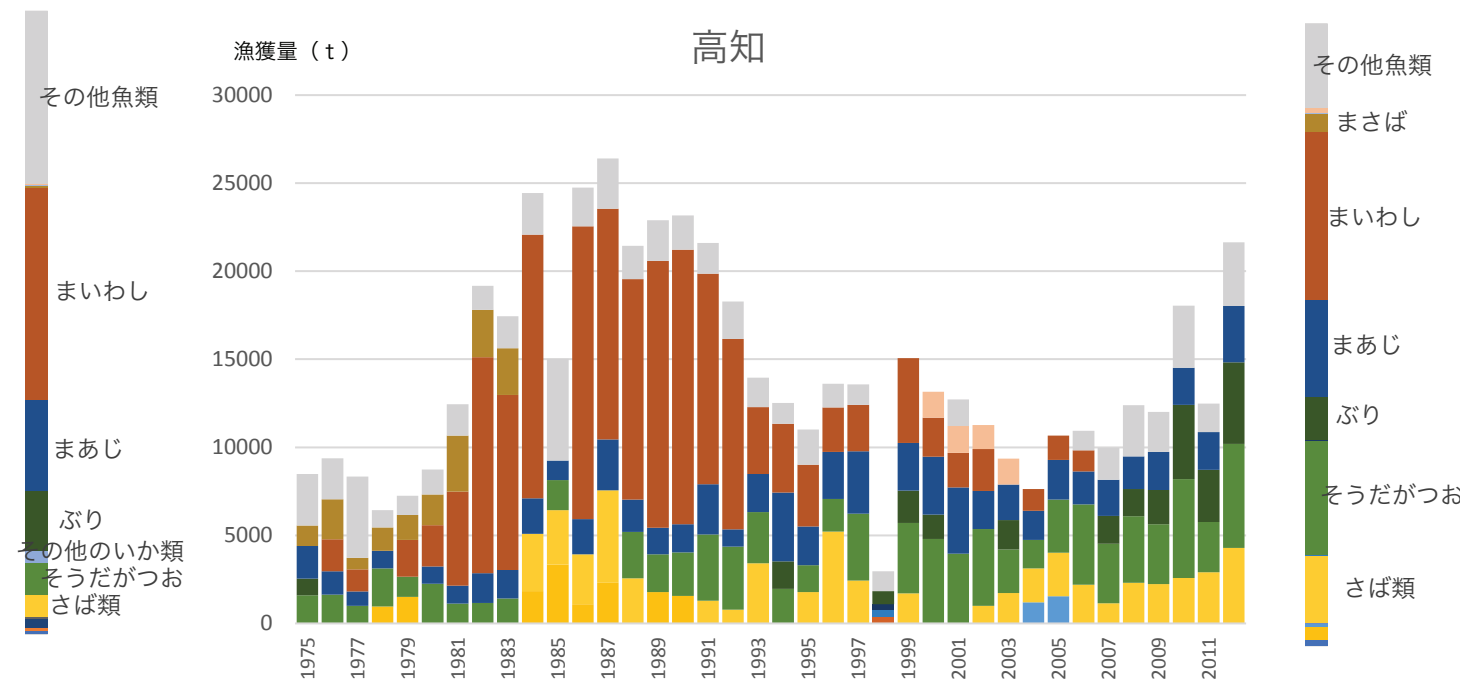
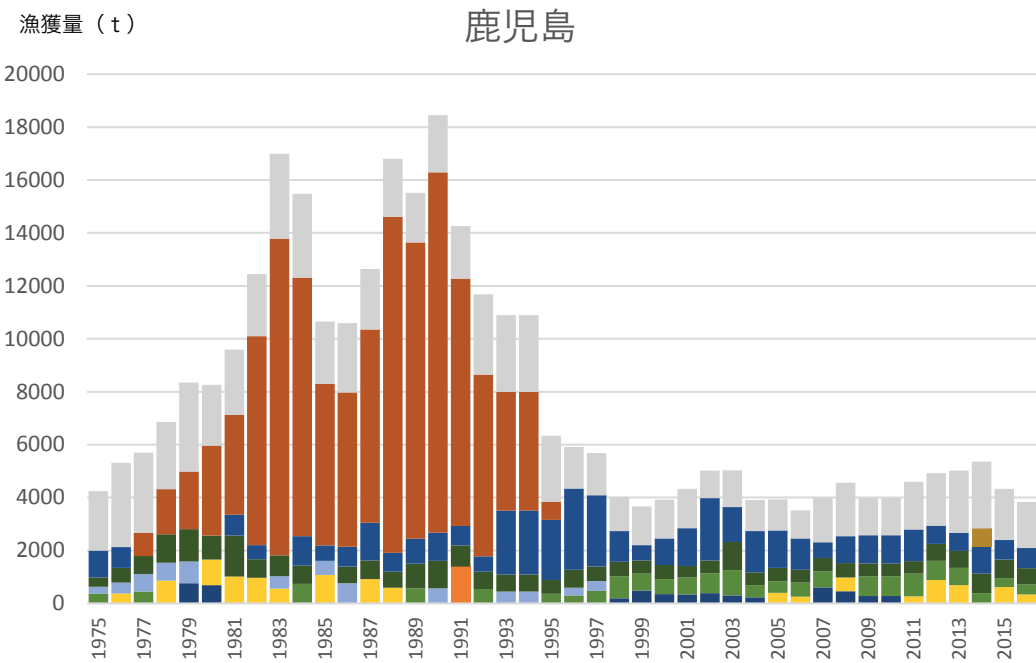
- ・ 主要な漁獲対象は、マイワシ、カタクチイワシ、マアジ、さば類、ぶり類、かわれい類、いか類。
- ・ 北海道や北日本における漁労体数が多いため、さけ・ます類、ホッケの漁獲量も多い。
- ・ その他として、地域性のある多様な生物種を漁獲。（ハタハタ：秋田県）

# さけ定置網

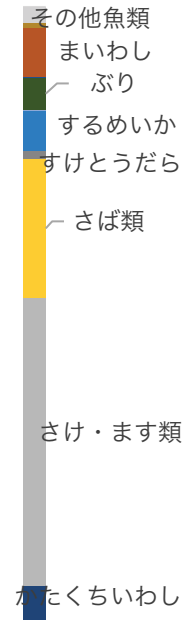
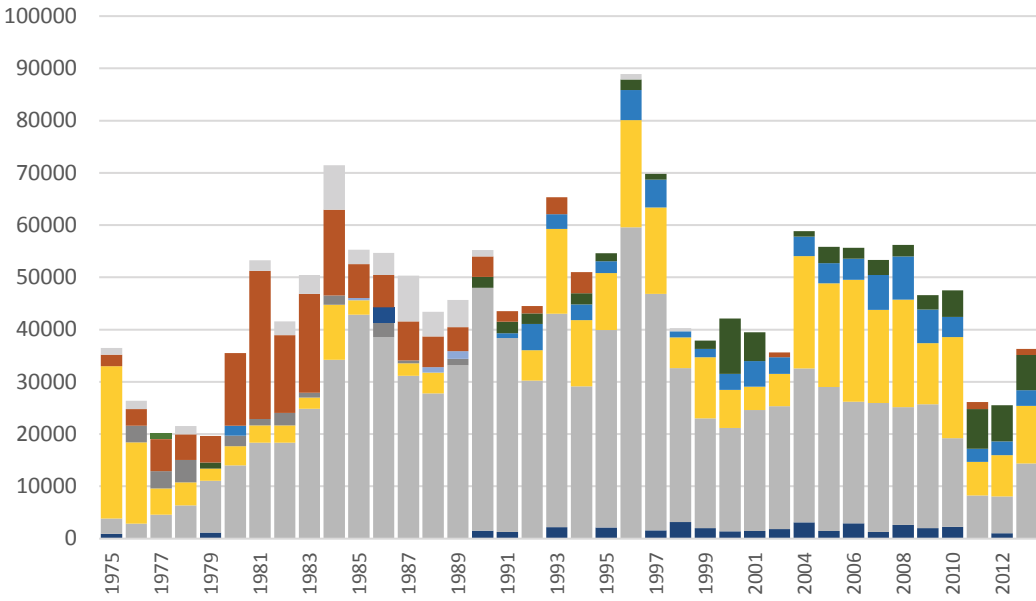


- さけ定置網漁業は定置漁業権に基づき行われもので、北海道のみに存在。
- 漁期は8～11月で、回帰してきたシロザケを採捕することを目的に行われるもの。他には、いわし類（マイワシ）、いか類（スルメイカ）等が僅かに混獲されるのみ。
- 孵化放流事業の成功・拡大による1980年代末からの回帰量の増大に伴い漁獲量も増加。2000年代前半にピークに達した後、急速に減少。漁労体数も漁獲量にあわせて増加し、1990年代中頃にピークとなり、その後は漸減傾向。
- シロザケは、本州北部（特に岩手県）の大型定置網および小型定置網にとっても重要な漁獲対象。漁獲量のピークは、北海道よりも早い1990年代中頃～後半。大型定置網では2011年の東日本大震災を契機にさらに減少。回復せず。





# 岩手



# 北海道 (全道)

